

分野連携企画報告書

行事（企画）名

第34回環境工学総合シンポジウム2024

環境工学と機械力学・計測制御部門連携セッション

行事URL : <https://www.jsme.or.jp/env/symp/sympo-info2024/index.shtml>

1.開催日・会場：高野山大学（和歌山県伊都郡高野町）

3.企画内容：

環境工学部門と機械力学・計測制御部門の連携推進を狙い、高野山大学で開催された第34回環境工学総合シンポジウム2024にて合同セッションを実施した。費用や負担を抑えつつ部門連携の効果を得るという観点から、新たな講演会を企画するのではなく、毎年開催している環境工学総合シンポジウム内にて独立した新たなOSを合同セッションとして設定した。

講演テーマは、今後目覚ましく発展することが想定されるモビリティ関連の振動騒音問題として、日産自動車の榎本俊夫氏から「自動車の振動騒音と環境の関わりとその変遷」、法政大学の御法川学氏から「アーバンエアモビリティの機体開発と騒音について」とのタイトルでご講演いただいた。

4.連携の成果

両講演とも振動騒音問題という観点で、基本性能と環境性能のトレードオフについての話がメインピックスであり、法整備と技術開発両面からの課題解決の難しさや、解決方法よりも目的や開発方針の議論の重要性についても語られた。

本講演における技術開発目的の再確認や関連法整備に関する話題は、他分野への展開が容易に想像され、質疑応答では約80名あまりの聴講者から活発な議論が交わされた。

環境工学部門で環境騒音の研究をされている方と、機械力学・計測制御部門の振動制御やアクティブ除振技術を研究されている方に講演依頼をすることで、環境工学部門第一技術委員会の騒音・振動評価・改善技術分野との交流を促したいという目的は凡そ達成できたといえる。

2.企画部門

環境工学部門

機械力学・計測制御部門

5.今後の課題

- ・コロナ禍開けということで、オンラインを併設せずに完全オフライン実施とした。高野山大学は交通アクセスに困難な場所である一方で、多くの聴衆が集まった。
- ・HPなどで分野連携セッションの存在を十分にアピールしていなかった。他の分野のシンポジウムのようにHP上で分野連携企画を案内するページを設置するなどして、認知度を向上する施策を行うとより効果的と考えられる。
- ・広い分野の方に聴講頂くことを見越して、メインテーマを明確に設定しないことにより、議論の方向性が不明確になる懸念があった。幸いにも両講演者とも技術開発目的の再確認や関連法整備に関する話題で統一されていたので、活発な議論の場が提供できた。